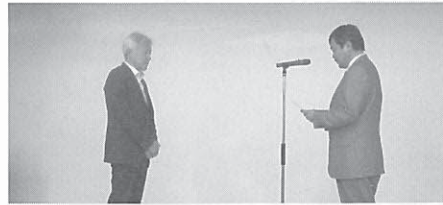


札幌市の救急体制について
て～救急業務の高度化とともに～」と題してご講演いただきました。

講演の前半は消防全体の仕事、消防学校、消防航空隊について、そして後半は札幌市の救急活動について詳しく解説していただきました。

「119番通報から救急車の現場到着までの所要時間が平成15年では5.5分だったが、最近の出動件数の増加に伴い、全国的に時間が伸びているのが現状で、平成24年では1分弱伸びて6.3分かかっている」というお話がありました。1分1秒でも早く現場に到着し、尊い命



を救うという強い使命感を感じました。私たち歯科医師も万が一の時に119番通報をした際、可能な限りのことを行い救急隊の到着を待つことができるよう、知識、技術の向上に努める責任を感じた講演でした。(鈴木敏人記)

第46回十三大市歯科医師会役員連絡協議会
—北九州市で開催—
「生きる力を支える歯科医師会を目指して」



本会からは藤田会長、福島副会長、山田副会長、大西専務理事、諸留理事、井谷理事、旗手理事、中尾理事、高橋理事の9名が出向しました。

最初に「高齢社会における歯科医療の役割」と題し日本歯科医師会大久保会長より基調講演があり、その後『生きる力を支える歯科医師会を目指して』を今年の協議題として、全体協議主旨である歯科口腔保健の現状と将来の展望を考えるため、第1分科会では「政令都市歯科医師会の現状と展望」、第2分科会では「地域医療連携への取り組み」について活発な議論をいたしました。

今回は平成26年10月に福岡市にて開催予定であり、平成27年度には札幌にて開催予定となっております。(旗手隆博記)



美唄

BIBAI

平成25年度口腔内科分野臨床研修会

日時：平成25年11月21日(木)19:00～20:30

場所：美唄ホテルスエヒロ

講師：札幌医科大学医学部

口腔外科学講座 助教 三木善樹先生

演題：睡眠時無呼吸症候群患者に対する口腔装置の有効性及び作製法

例会終了後、臨床研修会が行われた。

近年、睡眠時無呼吸症候群(sleep apnea syndrome ;SAS)の名前は世間でも認知されてきており、中でも9割を占める閉鎖型睡眠時無呼吸症候群(obstructive sleep apnea syndrome ;OSAS)は睡眠時に舌根が沈下し上気道が閉塞状態になり無呼吸状態や、いびきを引き起こすと考えられている。

SASの治療にはCPAP(経鼻式持続陽圧呼吸療法)が知られているが、耳鼻咽喉科で終夜睡眠ポリグラフィにて確定診断を得た後に

ともあり、来場する方が増えて、最終的な参加者は248名となりました。残念ながら昨年より100名ほど少ない結果でした。イベント内容は昨年同様で、参加者のほとんどがフッ化物塗布を受け、お口の健康度チェック、口臭検査、咬合力検査を受けたのは各10名ほどでした。

このイベントは6月のイベントと共に子供を持つ小樽市民に定着したイベントとなっているようで、4回以上参加しているという方は54%に上りました。小樽市も共催としてイベントに参加し、歯周病チェックリストを配布し歯周病予防を呼びかけました。(中村悦子記)



野球部納会

平成25年11月15日(金)午後7時30分より、「香蔵」にて、標記納会が開催され21名が参加した。

千葉亘先生の乾杯で開宴し、部長である倉本悦男先生の挨拶では、今年御逝去された佐藤尚先生との思い出を語られた。マネージャーの平井晋先生より事務連絡のあと、来年の札幌大会に

いあった。(石巻薫記)
三師会総会
平成25年11月30日(土)午後6時より、ニュー三幸にて72名が出席し、第1部は総会・第2部が懇親会の2部構成で開催された。総会は小樽薬剤師会が担当し、開会の辞を桂正俊会長が行った。来賓の紹介のあと津田哲哉三師会会長よりご挨拶いただき、中松義治小樽市長の祝辞後、講演が行われた。演題は「摂食・嚥下障害とその対応」で樽歯会館 宏会員の講演であった。

第2部は小樽市医師会の担当で懇親会が行われた。医師会近藤真章副会長の挨拶のあと、小樽市議会の横田久俊議長の乾杯で開宴した。途中、総会に先立ち行われた、三師会対抗ボーリング大会・麻雀大会の表彰が行われた。それぞれの入賞者には賞品が授与された。麻雀大会の優勝は角谷淳会員で、今年度の総合優勝は歯科

市三師会
医師会、2位は医師会であった。最後に本会市村昌久会長の万歳三唱により懇親会は終了した。

(諸岡亮記)



我々が扱う口腔内装置(Oral Appliance,OA)もひとつの選択肢である。今回はOAの作製法とその効果にポイントを絞ってご講演頂きました。



三木善樹先生

海外や日本でSASが影響していると思われる事故による経済、産業損失の報告から、その分類、症状、合併症等の説明の後、スプリントレジン等を用いた

OAの作製法、仰臥位で行う咬合採得のコツ(下顎位の決定法など)、さらにその有効性について豊富な症例の追跡データをご提示頂きました。

今後SAS患者は増加していくと考えられ、医科と密接に連携しながら我々もSAS治療に関わる事は時代の流れと思われれます。そのためにはしっかりとOAについて理解、習熟し、日常臨床に組み込んでいく必要性を痛感させる講演でありました。(滑川貴彦記)